

○計画期間：平成28年12月～令和4年3月（5年4月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和2年度終了時点（令和3年3月31日時点）の中心市街地の概況

雲南市は、平成28年11月29日付けで基本計画の認定を受け、経済や人の流れを堰止める「ダム効果」を発揮する中心市街地の形成に向けて取り組みを進めてきた。

民間による取り組みとしては、まちづくり会社による商業エリアの核となる「SAKURAマルシェ整備事業」に平成30年8月に建設着手、「中心市街地活性化商業施設コトリエット」として令和元年7月にオープンした。6店舗が入居した同施設には、県・市内外から目標を上回る来客があり順調に売上高を伸ばすと共に、「ダム効果」を発揮していたところである。

しかし現在では、予期せぬ新型コロナウイルス感染症の拡大により来客数や売上高が減少しており、各種支援策を活用しながら経営の持続に努力されている状況である。

新型コロナウイルス感染症流行下の厳しい状況が続くが、引き続き購買力流出の抑制に効果を発揮するよう、施設の魅力増大に向け努力していく。

商工会も、新型コロナウイルス感染症により多大な影響を受けているが、中心市街地の活性化に向けて継続的な活動を行っている。新型コロナウイルス感染症の流行下ではあるが、令和2年度も新規の出店があり、今後の賑わいの創出や来街者の増加、経済活力の向上に期待している。

また、「ビジネスホテル整備事業」については、用地取得が完了しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度に予定されていたホテル建設が一時延期された。しかし、事業主体である（株）共立メンテナンスから令和5年春のオープンが示されたところであり、引き続き調整を進め早期完成を目指していく。

行政による取り組みとしては、都市再生整備計画事業による「市道改良事業」の大半が完成を迎え、商業エリアへのアクセス道としての安全性・利便性を高めている。また、併せて計画していた「元気パーク整備事業」も（愛称）コトリパークとして令和元年12月に供用開始し、子供から高齢者まで幅広い年代の憩い・交流の場として利用されている。令和3年度には残る「市道改良事業」や「多目的イベント広場整備事業」の実施を予定しており、全ての計画事業完成に向け引き続き工事を進めていく。

定住人口の増加を目指して実施している居住支援などの取り組みについては、各種支援制度の活用効果もあり、令和2年度においては、昨年度まで減少し続けていた中心市街地の人口が増加に転じた。引き続き各種支援制度を活用し、中心市街地の定住人口増加に向け努力していく。

基本計画の認定から4年4ヶ月が経過し、各事業の効果が発揮されつつあるところである。今後の新型コロナウイルス感染症の状況が懸念される中ではあるが、今後も、民間と行政による連携と適切な役割分担を行い、中心市街地の活性化に向けた取り組みを着実に進めていきたい。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	平成27年度 (計画前年度)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)	令和元年度 (4年目)	令和2年度 (5年目)	令和3年度 (6年目)
人口	2,061人	2,035人	2,017人	2,012人	1,965人	1,986人	
人口増減数	20人	△26人	△18人	△5人	△47人	21人	
自然増減数	18人	21人	4人	5人	7人	5人	
社会増減数	2人	△47人	△22人	△10人	△54人	16人	
転入者数	83人	85人	64人	72人	66人	67人	

(2) 地価

(単位：円/㎡)

(中心市街地区 域)	平成27年度 (計画前年度)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)	令和元年度 (4年目)	令和2年度 (5年目)	令和3年度 (6年目)
三刀屋町三刀屋 35番2外 (近隣商業地域)			37,600	37,200	37,000	37,000	
三刀屋町三刀屋 1212番19 (第1種住居地域)	27,700	27,500	27,400	27,300	27,300	27,300	
木次町下熊谷 1210番1 (第1種住居地域)			29,100	29,100	29,100	28,900	

出典：全国地価マップ

2. 令和2年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

認定雲南市中心市街地活性化基本計画（以下、「基本計画」という。）の事業遂行にあたっては、タウンマネジメント会議をはじめ各種プロジェクトを推進するための会議を実施し、事業の具体化に向けて議論を行ってきた。

とりわけ、基本計画の主要事業の一つであり、商業活性化の核となる事業である「SAKURAマルシェ整備事業」については、まちづくり会社である雲南都市開発㈱により「特定民間中心市街地経済活力向上事業計画」の経済産業大臣認定を受け、雲南市や商工会との連携のもと、新たな商業施設の建設が進められ、令和元年7月に「中心市街地活性化商業施設コトリエット」としてオープンし、県・市内外からの多くの利用客により経済の「ダム効果」を発揮していたところである。

しかし、予期せぬ新型コロナウイルス感染症の拡大により、飲食店舗を中心としたコトリエットは厳しい経営状況となっている。GOTOイートなどの各種飲食店支援対策により、一定の売り上げは確保されているものの、先の見えない状況が続いており、コロナ禍でも持続できる経営

を目指し議論を続けているところである。

「ビジネスホテル整備事業」については、雲南市において用地取得が完了されているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和 3 年度に予定されていたホテル建設が一時延期された。しかし、事業主体である(株)共立メンテナンスから令和 5 年春のオープンが示されたところであり、雲南市と引き続き連携し早期完成を目指していく。

また、こうした商業エリアの一角で「市道改良事業」「元気パーク整備事業」「多目的トイレ整備事業」などが雲南市により順調に進められ、完成した市道は商業エリアへのアクセス道としての安全性・利便性を高めると共に、「元気パーク整備事業」は(愛称)コトリパークとして令和元年12月に供用開始され、子供から高齢者まで幅広い年代の憩い・交流の場として利用され、成果目標の「交流人口の増加」へ効果を発揮すると共に、商業エリアにおける経済波及効果も生じているところである。

一方、中心市街地内の人口は、昨年まで減少し続けていたが、令和 2 年度において、人口増加に転じた。基本計画の各種事業による中心市街地の利便性向上に伴い、若者による新たな住居の建築も見られているところである。基本計画の各種取り組みの成果であり、引き続き定住人口の増加に向けて努力していく。

以上のことから、基本計画は順調に進捗しており、基本計画に掲げる成果目標の実現が期待できるものと評価する。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
購買力流出の抑制	中心市街地の 新規出店数 (店舗)	10(店舗) [H23～ [H27 年度]	15(店舗) [H28～ [R3 年度]	28(店舗) [H28～ [R2 年度]	A	①	①
定住人口の増加	中心市街地の 人口 (人)	2,051(人) [H27 年度]	2,094(人) [R3 年度]	1,983(人) [R2 年度]	C	②	②
交流人口の増加	中心市街地で実施する まめなカー市の 年間入込客数 (人/年)	5,800(人/年) [H27 年度]	10,000(人/年) [R3 年度]	0(人/年) [R2 年度]	C	①	①

< 基準値からの改善状況 >

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 >

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

「購買力流出の抑制」に向けて新規出店数を目標に掲げているが、中心市街地に対する期待感の高まりや、商工会の独自の取り組み等により新規出店数は既に目標値を達成している。「SAKURAマルシェ整備事業」による新規商業店舗建設については令和元年7月に完成を迎え、これにより更に新規出店数が増加したため、指標である「中心市街地の新規出店数」は、目標値を大きく上回っている。

「定住人口の増加」については、昨年まで減少し続けていた人口が、人口増加に転じた。「定住人口の増加」に向けて活用を推進している「子育て世帯定住住宅地購入補助金」や「住宅リフォーム支援事業」など各種定住対策事業の効果もあり、引き続き同事業を活用し目標達成に向け努力していく。

「交流人口の増加」に向けては、「多目的イベント広場」の整備を進め、「まめなカー市（軽トラック市）」を代表とする各種イベントの開催などにより来街者の増加を図りたい。継続的に実施してきた「まめなカー市」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、令和2年度においては一度も開催できなかった。令和3年度には「多目的イベント広場」が完成する予定であり、新型コロナウイルス感染症流行の終息後は、同広場を活用し、周辺の商業施設や他のイベントとの連携、企画の魅力化などにより集客数の増加を図ると共に開催回数も増やすことにより、目標値の達成を目指す。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

中心市街地内の人口は、昨年まで減少し続けていたが、令和2年度において、一転して人口増

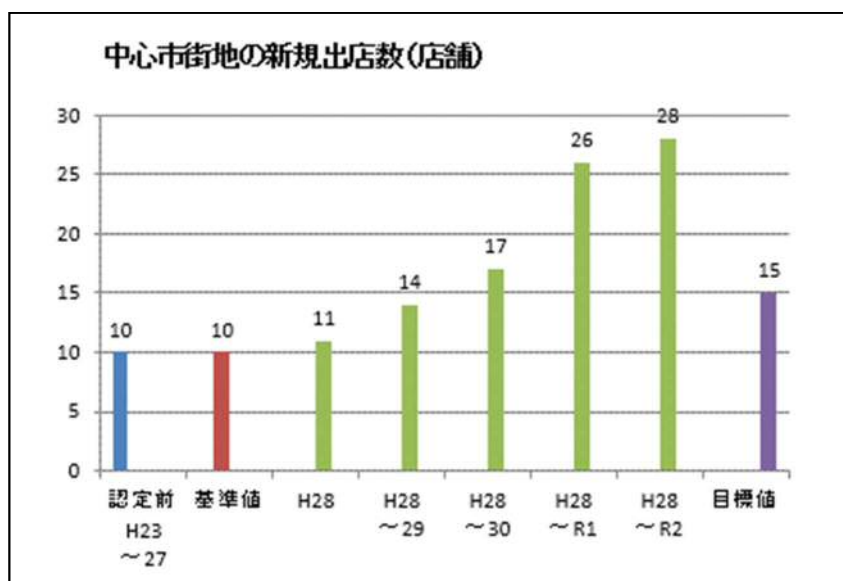
加となった。基本計画の各種事業による成果であり、引き続き目標達成に向けて最大限努力していく。

また、新型コロナウイルス感染症流行の終息後は、完成する「多目的イベント広場」を活用し、積極的にイベントを開催すると共に周辺の商業施設との連携や企画の魅力化も図り、目標達成に向け交流人口の拡大を目指していく。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「中心市街地の新規出店数（店舗）」※目標設定の考え方基本計画 P. 72 参照

●調査結果と分析



年	(店舗)
H 23~27	10 (基準年値)
H 28	11
H 28~29	14
H 28~30	17
H R 28~1	26
H R 28~2	28
H R 28~3	15 (目標値)

※調査方法：年間の新規出店者を集計

※調査月：令和3年3月

※調査主体：雲南市商工会

※調査対象：中心市街地における新規出店者で商工会員である者

〈分析内容〉

中心市街地への毎年の継続した新規出店、「SAKURAマルシェ整備事業」による新規6店舗の出店も加わり、指標である「中心市街地の新規出店数」は、目標値を大きく上回っている。

民間商業施設（スーパーマーケット）のリニューアルによる集客力の増加、商業エリアの一画で行われた「市道改良事業」「元気パーク整備事業」「多目的トイレ整備事業」も、中心市街地の魅力や利便性の向上に繋がり、来街者の増加に効果を表している。

また、「創業者育成研修事業」では、市内事業者が業種を超えてワークショップ・共同プロジェクトの実施など交流・ネットワーク促進を図ることで、時代の変化や新型コロナウイルス感染症に対応した新たな価値創造、事業創出を目指すアイデア実践検討会「事業創出ラボ（以下、SHIFTという。）」を立ち上げている。SHIFTでは参加者の事業内容の共有やアイデア出し、事業構想の具体化を行う2回の検討会を通じて、「アウトドアチーム」、「モビリティ／買い物支援チーム」、

「ワーケーション・テレワークチーム」の3つの部会が誕生し、それぞれ新規事業の創出に向け研修会の実施や議論を重ねた。SHIFT を通して新たなことへ挑戦する素地形成と意欲的な事業者たちのプラットフォーム形成が促進することで、中心市街地内での新たな事業創出や新規起業につながっている。

さらに「雲南スペシャルチャレンジ・ホープ事業」においても、9件が採択候補に挙がり2件が採択されている。今後、本採択に至らなかった7件についても育成枠として今後事業のブラッシュアップを行っていく予定である。

新規出店に対する商工会の継続的な取り組みをはじめ、各種基本計画事業による中心市街地の活性化や起業者の意識向上など多くの要素が重なることが新規出店を促し、目標値を大きく上回ったと考察する。引き続き起業家の育成に取り組むことで中心市街地への新規出店の増加に努める。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. SAKURAマルシェ整備事業（雲南都市開発（株））

事業実施期間	平成29年度～令和元年度【済】 [認定基本計画：平成29年度～平成30年度]
事業概要	商業エリアを構成する商業施設として新たに整備する。地元の食材を活かした飲食店をはじめとする個性的な店舗が集まるオープンモールとして整備する。
国の支援措置名及び支援期間	<ul style="list-style-type: none"> ◆特定民間中心市街地経済活力向上事業計画の経済産業大臣認定（経済産業省）（平成29年度～令和元年度） [認定基本計画：平成29年度～平成30年度] ◆地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（平成30年度～令和元年度） [認定基本計画：平成30年度] ◆中心市街地における低利融資（企業活力強化貸付（企業活力強化資金））（経済産業省）（令和元年度） [認定基本計画：平成30年度] ◆特定民間中心市街地経済活力向上事業の用に供する不動産の取得又は建物の建築をした際の登録免許税の軽減（経済産業省）（令和元年度） [認定基本計画：平成30年度]

事業目標値・最新値及び進捗状況	新規出店数4店舗を目標としていたが6店舗の建設を行い、他の新規出店と合わせ目標値を大きく上回った。平成29年度から平成30年度までの事業であったが、関係機関との協議に不測の日数を要したため、繰越事業として整備を行い「中心市街地活性化商業施設コトリエット」として令和元年7月にオープンした。
事業の今後について	自然と調和した中心市街地の新しい賑わいの拠点として、来街者の増加に効果を上げている。引き続き、中心市街地での消費を促し、市外に流出している購買力や人の流れを堰止める施設となるよう努めていく。

②. 民間商業施設整備事業（民間事業者）

事業実施期間	平成28年度～平成29年度【済】
事業概要	商業エリアの一面を担う民間商業施設を整備する。老朽化した店舗をリニューアルし、商業の核となるスーパーマーケットとして整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	中心市街地への新規出店数8店舗を目標としている。中心市街地の商業の核店舗であるスーパーマーケットのリニューアルは完成し、その他関連事業「市道改良事業」などの相乗効果もあり、来街者は増加している。また、「創業者育成研修事業」などによる事業者の新規出店への意欲の高まりも見られ、指標である「中心市街地の新規出店数」は、SAKURAマルシェ整備事業の新規出店と合わせ目標値を大きく上回った。
事業の今後について	引き続き中心市街地の商業の核店舗としての役割を果たし、中心市街地への集客力向上と、人や経済の流出抑制を図る。

③. 空き家・空き店舗再生事業（雲南市・雲南都市開発（株））

事業実施期間	令和元年度～令和3年度【実施中】
事業概要	中心市街地内の空き家・空き店舗を活用した新規出店を誘致する。商業に限らず、事業所を起業する人がインキュベーションオフィスとして利用できるようにする。空き家・空き店舗情報の発信を行い、出店を促進・誘致する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 （令和元年度～令和3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	認定時点で目標としていた空き店舗3店は、全て事務所として利用されている。令和元年度に空き家・空き店舗の再調査を実施し、活用が可能な店舗等のワークショップを実施した。令和2年度には木次駅前商店街に起業家のインキュベーションオフィス、コワーキングスペースとして利用できる「オトナリ」が開設され、空き家・空き店舗情報

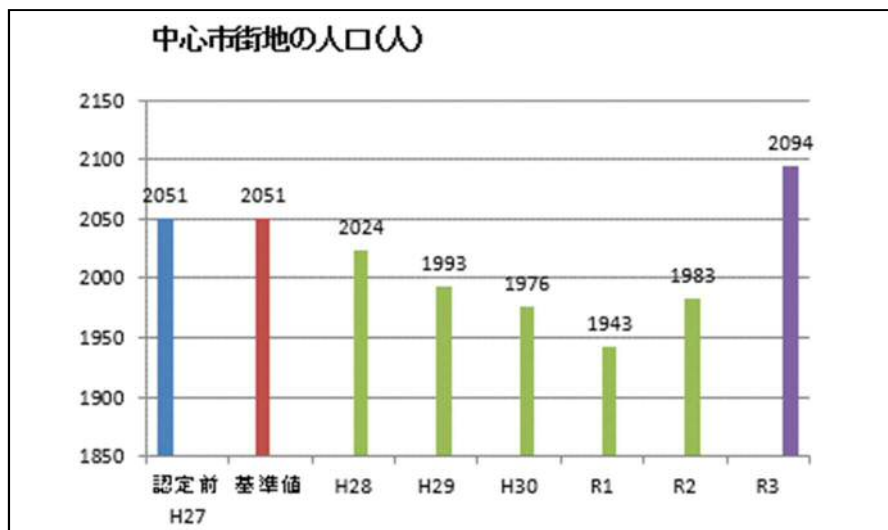
	の発信も行うことで、交流人口の増加・新規出店の促進に寄与している。
事業の今後について	今後も、活用が可能な店舗等の調査・ワークショップ等を実施し、空き家・空き店舗の活用を進めていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

SAKURAマルシェ整備事業をはじめ、各種基本計画事業による中心市街地活性化に対する機運の高まりや商工会による独自の取り組み、起業家の育成支援などにより、新規出店数は毎年伸び、目標値を達成した。今後の新型コロナウイルス感染症の状況が懸念される中ではあるが、引き続き新規出店の増加に努める。

(2)「中心市街地の人口(人)」※目標設定の考え方基本計画 P. 75 参照

●調査結果と分析



年	(人)
H27	2,051 (基準年値)
H28	2,024
H29	1,993
H30	1,976
R1	1,943
R2	1,983
R3	2,094 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳

※調査月：令和3年3月末

※調査主体：雲南市

※調査対象：中心市街地の居住人口

〈分析内容〉

昨年まで減少し続けていた人口が、令和2年度において一転し増加となった。中心市街地内の民間の宅地開発、若者による新たな住宅建築も継続して見られ、併せて年少人口も増加している。引き続き、新規住宅建築に繋がる「宅地購入補助金」や定住促進に繋がる「住宅リフォーム支援事業」を活用し、居住人口の増加を図る。

また、「市民バス路線改善事業」や「各種公共交通助成事業」も中心市街地の利便性向上により定住に効果を発揮しており、引き続き実施していく。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 定住推進住宅改修助成事業（雲南市）【平成30年度追加】

事業実施期間	平成29年度～平成30年度【済】
事業概要	子育て世代の入居を目的とした賃貸住宅の改修に対して支援するとともに、定住の促進を図る。（補助率 1/2、上限 350 万円）
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業期間2年で8戸の実績があり、現時点での入居者は目標の13人を下回る10人に留まっているものの、全て市外からの移住であり、Uターン、Iターンによる子育て世代の入居である。
事業の今後について	子育て世代に向けて積極的な情報発信を行うことで更なる入居を促し、定住人口の増加を図る。

②. 子育て世帯定住宅地購入補助金（雲南市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	子育て世帯が、定住や市外からの移住をする際に、土地購入費に対して補助金を交付する。（補助率 1/10、上限 50 万円）
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	居住人口の増 65 人を目指し、5 件／年間の申請を目標としている。令和 2 年度の中心市街地の申請は 5 件あり、事業が定住人口増加に効果を発揮しており、引き続き事業を継続していく。
事業の今後について	引き続き事業について情報発信を行うとともに、中古住宅の流通や民間事業者による宅地造成を促し、定住や移住を支援する。

③. 住宅リフォーム支援事業（雲南市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	住宅をバリアフリー化、耐震化など、エコ住宅に改修する際に改修費用に対して補助金を交付する。（補助率 1/5、上限 40 万円）
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	人口の社会減の抑制 24 人を目標としている。令和 2 年度の中心市街地の申請は 4 件あり、住宅の改修による定住の促進に寄与している。人口減少の抑制に向けて、引き続き事業を継続していく。
事業の今後について	引き続き事業について情報発信を行う。支援の活用により快適な住宅へと改修を促し、人口の社会減を抑制する。

④. 住宅ストック活用推進事業（雲南市）

事業実施期間	平成29年度～令和3年度【実施中】
事業概要	空き家情報を掲載する空き家バンクを立上げ、民間の空き家の流通促進および有効利用を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	人口の社会減の抑制24人を目標としている。専従スタッフを配置し、民間業者や地元とも連携し休祝日も対応するなど、柔軟な対応により市全域での空き家登録件数における成約件数割合は高い状況にある。令和2年度は中心市街地における新規空き屋登録は無かったが、市全域での成果は向上しており、引き続き積極的な活動を行う。
事業の今後について	引き続き行政・民間業者・地元の3者が一体となって、空き家物件の情報収集・発信を行い、空き家の流通促進・有効利用を図る。また、中心市街地への居住誘導も進め、人口の社会減の抑制と定住人口の増加を図る。

●目標達成の見通し及び今後の対策

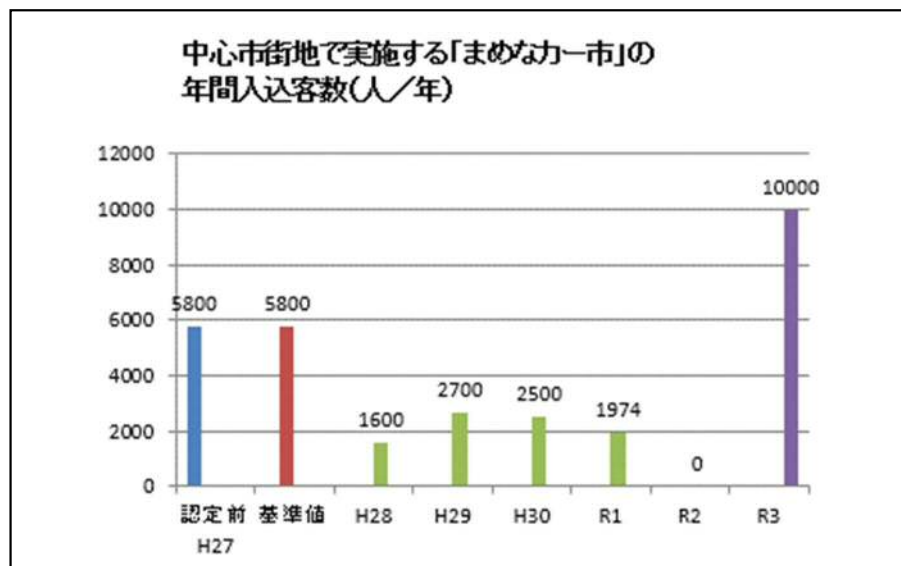
昨年まで減少し続けていた人口が、令和2年度において一転し増加となった。中心市街地は市内で最も利便性が高く、基本計画に掲げる事業を進めることで、移住・定住が図られるものと期待している。

各種事業の情報発信については、市の定住サイト「ほっこり雲南」の運営（インスタ、Facebookも開設）や、移住スカウトサービス「SMOUT」への情報掲載などオウンドメディア内外で情報発信を行っている。引き続きオウンドメディア外での露出強化も図っていく。

また、オンラインでの移住相談の受付、1泊2日の移住体験プログラムのオンライン化、民間機関が主催するオンライン移住イベントへの積極的な参加など、新型コロナウイルス感染症流行の中でもオンラインを活用した情報発信に努めていき、引き続き人口の社会減の抑制と定住人口の増加に向けて努力していく。

(3)「中心市街地で実施する『まめなカー市』の年間入込客数(人/年)」※目標設定の考え方基本計画 P. 77 参照

●調査結果と分析



年	(人/年)
H27	5,800 (基準年値)
H28	1,600
H29	2,700
H30	2,500
R1	1,974
R2	0
R3	10,000 (目標値)

※調査方法：各開催日の来場者を集計

※調査月：令和3年3月

※調査主体：雲南市商工会

※調査対象：中心市街地で実施した「まめなカー市」の入込客数

〈分析内容〉

継続的に実施してきた「まめなカー市」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、令和2年度においては一度も開催できなかった。そのような状況下ではあるが、民間商業施設（スーパーマーケット）のリニューアル、商業エリアの一角で行われた「元気パーク整備事業」「多目的トイレ整備事業」も、中心市街地の魅力や利便性の向上に繋がり、来街者の増加に効果を表しているところである。

令和3年度には「多目的イベント広場」が完成する予定であり、新型コロナウイルス感染症流行の終息後は、同広場を活用し、周辺の商業施設や他のイベントとの連携、企画の魅力化などにより集客数の増加を図ると共に開催回数も増やすことにより、目標値の達成を目指す。

ビジネスホテルの完成後は、宿泊客にも積極的なイベント案内を行うことで、更なる集客や交流人口の拡大を目指していく。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 多目的イベント広場整備事業（雲南市）

事業実施時期	平成29年度～令和3年度【実施中】
事業概要	まめなカー市を主とした様々なイベントが実施できる広場を整備する。イベントへの来場者を近隣の商業施設へ誘客する。

国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 (都市再生整備計画事業(三刀屋木次IC周辺地区)) (国土交通省)(平成29年度～令和3年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	交流人口の増加、まめなカー市への年間入込客数10,000人を目標としている。令和3年度に整備を行う予定である。
事業の今後について	広場の完成後は周辺施設と連携し、魅力的なイベントを多数開催するとともに、ホテル完成後は宿泊者も積極的に取り込み、交流人口の拡大を図る。

②. まめなカー市実施事業(雲南市商工会)

事業実施時期	平成21年度～【実施中】
事業概要	様々なジャンルの商品を積んだ軽トラックが整列し、市場を開催する。この軽トラ市を「まめなカー市」と称し、市内外からの集客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 (平成29年度～令和3年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	年間入込客数10,000人を目標としている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策を十分講じたうえでの開催も検討していたが、市内での感染者の発生や隣接市町村でのクラスター発生などもあり、開催することができなかった。
事業の今後について	令和3年度も新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴うイベント自粛等で開催目途が立たない状況である。今後、外出自粛は解除されても3密回避などの行動がしばらく続くことも予想されるため、国や県の指示にも従いながら、安全に開催する方法を模索していきたい。開催の見通しがたてば、令和3年度に整備予定の「多目的イベント広場」を活用し、周辺の商業施設と連携し市内外からの集客を図っていきたい。

③. ビジネスホテル整備事業(株共立メンテナンス)

事業実施時期	平成29年度～令和3年度【実施中】
事業概要	商業エリアにビジネスホテルを整備する。ビジネス客や観光客の宿泊需要に対応し、交流人口の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	交流人口の増加、まめなカー市への年間入込客数10,000人を目標としている。平成30年度には用地取得が完了し、令和3年オープンを目指して調整中であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和5年春のオープンに延期となった。年度当初は新型コロナウイルス感染症流行の終息目途も不透明な状況の中でオープン予定の

	見通しも立たなかったが、(株)共立メンテナンスより具体的なオープン予定時期が提示されたことで、ホテル建設及び交流人口の増加への期待感が醸成されている。
事業の今後について	隣接して実施する「多目的イベント広場整備事業」や「市道改良事業」などとの調整や、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら、令和5年春オープンを目指す。また、建設予定地の看板設置などにより、ホテルが建設されることの情報周知・広報に努める。

④. 雲南食材ホンモノマルシェ事業（雲南市商工会）

事業実施時期	令和元年度～令和3年度【実施中】
事業概要	雲南のこだわりの食材や地酒を集めて、一日限りのショップ（屋台）をオープンする。加えて、雲南の工芸や観光に関して、その道を極めた「プロ」がそれぞれのジャンルでワークショップを開催し、購買力流出の抑制・交流人口の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 （令和元年度～令和3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	交流人口の増加、まめなカー市への年間入込客数 10,000 人を目標としている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で同時開催しているうなんん土曜夜市が実施できず、本イベントも開催を自粛した。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症流行の状況を鑑みながら、まめなカー市やうなんん土曜夜市など市内の様々なイベントとタイアップし、購買力流出の抑制・交流人口の増加を目的とした有機的な連携を目指すために、出店事業者と調整を図っていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

新型コロナウイルス感染症の状況が懸念される中ではあるが、令和3年度には多目的イベント広場の完成、ビジネスホテルも令和5年春のオープンが予定されているところである。

新型コロナウイルス感染症流行の終息後は、多目的イベント広場を活用し、周辺の商業施設や他のイベントとの連携、企画の魅力化などにより集客数の増加を図ると共に開催回数も増やすことにより、目標値の達成を見込む。

また、ビジネスホテルの完成後は、宿泊客にも積極的なイベント案内を行うことで、更なる集客や交流人口の拡大を目指していく。